

選 鑛 學 文 獻 集 成

序 言

我國ハ國土狹隘ニシテ鑛産資源ノ見ルベキモノ少ク、不足資源ノ供給ヲ海外ニ依存スル處ガ少クナカツタガ、大東亞戰爭ヲ契機トシテ、從來ノ海外依存ヲ脱却シ、東亞共榮圈內ノ資源ヲ以テ自給自足シ、斷ジテ大東亞戰爭ヲ戰ヒ抜カネバナラス未曾有ノ時局ニ當面スルニ到ツタ。

共榮圈內ニハ石油、鐵、アルミニウム、錫、タングステン等極メテ有用ナル資源ガ豊富ニ埋藏セラレテキルガ、一方ニ於テ之等資源ノ活用ヲ圖ルト共ニ、他方ニ於テ貧鑛、難鑛等ノ資源ノ開發ヲ進展センメル事ガ極メテ必要デアル。

凡ソ原料利用ニ當ツテハ、其ノ貧鑛タルト富鑛タルトヲ問ハズ、原料ノ本質ニ適合セル方法ニ依ル事ガ肝要デアツテ、從來ノ如ク外國産原料ヲ對象トシテ發達セル技術ヲ輸入シテ、直チニ之ヲ外國産原料ト必ズジモ性質ヲ同ジウセザル國産原料ニ適用セントスルハ策ノ得タルモノデハ無イノミナラス、斯クテハ到底歐米ノ技術ヲ凌駕スル事ハ困難デアリ、延イテハ大東亞戰爭完遂ニ支障ヲ來ス惧無シトシナイ。茲ニ共榮圈內原料ヲ對象トスル獨自ノ基礎的並ニ工業的研究ノ必要ガ生ズルノデアル。

學問ハ進歩發展スルニ從ヒ愈々多岐ニ専門化セントスル傾向ガアルガ、或ル物ヲ對稱トスル研究ハ飽マデ綜合的デナケレバナラス。之ニハ専門家ガ同一ノ目的ニ向ヒ協力スルコトガ必要デアルガ、各専門家ガ或程度迄専門外ノコトニ對シ理解ヲ有シナケレバ綜合研究ノ成果ヲ期待スルコトハ不可能デアル。之ガ手段トシテ最モ重要ナルハ文獻ノ調査デアル事ハ云フ迄モ無イガ、或ル専門ノ學問ヲ通觀シ或ハ之ニ入ルニハ就中書籍ニ如クモノハ無イ。

此故ニ本書ニ於テハ主トシテ選鑛及ビ之ガ研究ニ關係アル書籍類ノ目錄ヲ作成スルコトヲ主眼トシ、雜誌、報告等ニ掲載セラレタル文獻ニ就テハ、之ヲ檢索スルニ必要ナル事項ヲ加ヘルニ止メタ。選鑛ニ關スル書籍ハ古イモノモ出來ル丈ケ掲載スルニ努メタガ、之ハ近來研究上舊式ノ方法ヲ再檢討シテ難問題ノ解決ニ資セントスル傾向ガ看取セラルルノミナラス、選鑛學發達ノ道程ヲ歴史的ニ追求シ、現在ノ科學ノ鎖國時代ニ於テ列國ニ擢ンデタル本邦獨自ノ選鑛學ヲ打建テル事ヲ念願セルガ爲デアル。

昨夏獨ソ戰ノ勃發、次イデ米國ニ於ケル資産凍結令ノ實施以來歐米ノ書籍ノ輸入ハ不可能トナリ、國內ニ於テモ専門書ハ初版發行後幾何モ無クシテ品切レトナリ、再版發行迄ニ長時日ヲ要シ、専門書ノ入手ハ勿論、或ル問題ニ對シ、必要ナル書籍ノ有無ヲ知ルコトモ甚ダ困難トナリツ、アル現狀デアル。斯ル情勢ニ於テハ必要ナル書籍ノ融通ハ勿論、重要ナル外國書ノ複製頒布ノ促進モ大ニ考慮セラルベキデアツテ、本書ガ斯學ノ研究者並ニ學習者ニ對シ多少トモ寄與スル處ガアレバ幸之ニ過グルモノハ無イ。

本書ノ編輯ハ昨年九月以前ノ資料ニ依ツタモノデアツテ、東北帝國大學所藏ノ圖書特ニ工學部金屬工學科教室、化學工學科教室、理學部化學教室、岩石鑛物鑛床學教室及ビ地質學古生物學教室ニ負フ處多大デアリ、又丸善株式會社仙臺支店ヨリ資料ノ提供ヲ受ケタ。選鑛製鍊研究所長工學博士濱住松二郎教授ハ絶エザル指導ト激勵ヲ賜リ、遠藤六雄、南 義雄、永矢之政、中谷洋太、小野孝一、若生敏夫、鈴木庄次郎ノ諸氏ハ編輯上助力ヲ與ヘラレ、高橋知子氏ハ周密ナル注意ヲ以テ校正ニ當ラレ、笹氣印刷所ハ印刷上多大ノ好意ヲ寄セラレタ。茲ニ記シテ深謝ノ意ヲ表スル。資料ノ蒐集ニ當ツテハ出來ル丈ケ完全ヲ期シタノデアルガ、淺學菲才ノ爲出來上ツタモノハ甚ダ理想ニ遠イモノデアリ、遺漏、誤謬ノ多カラン事ヲ恐レルモノデアル。讀者諸賢ノ御示教ヲ仰グコトヲ得レバ幸甚デアル。

昭和 17 年 5 月 30 日

編 者 識

Systematic use of the literature is the means of establishing authority and originality, in science as well as in history and jurisprudence. Many men have been found to be unsatisfactory in industrial research because of their lack of knowledge of elementary bibliographic procedure. How often in our personal work we have seen the criticism of a referee of a candidate to the effect that the latter "was not able to work with ease and interest in literature searches" or "was replaced by better man because he could not be dependent on to make a thorough survey of the literature".

E. R. Weidlein, and W. A. Hamor (1936).

凡 例

1. 本文獻集ハ選鑛及ビ之ニ關聯スル書籍，パンフレット等ノ單行出版物，雜誌及ビ報告類ノ目錄ヲ作成スルヲ目的トシ，雜誌，報告等ニ掲載セラレタ個々ノ文献ハ採録シナカツタ。
2. 分擔執筆ニナル單行出版物ニシテ執筆者ノ明カナモノハ，一々之ヲ採録スル事ニ努メタ。
3. 選鑛ニ關スル單行出版物ハ古イモノモ出來ル丈ケ採録スルコトニ努メタ。
4. 冶金學，化學工學ニ關スル單行出版物ノ中選鑛ニ關係アルモノハ出來ル丈ケ採録シタ。
5. 金鑛ノ選鑛ニハ混汞法及ビ青化法ニ關スル單行出版物ヲ加ヘタ。
6. 混合，乾燥，製團，焙燒及ビ燒結，原料ノ運搬及ビ貯藏，試料採取及ビ秤量等ノ補助的操作並ニ鑛石ノ販賣等ニ關スル單行出版物ヲモ採録シタ。
7. 選鑛ノ研究ニ必要ナル實驗法ニ關スル單行出版物ハ主トシテ 1920 年以後ノモノヲ採録シタ。
8. 實驗法ニ關スル單行出版物ノ範圍ハ鑛物學，物理化學，無機化學，有機化學，化學分析及ビ工業化學トシタ。
9. 辭書ハ科學及ビ工學一般，物理學，化學，地質學及ビ鑛物學，採鑛學及ビ冶金學，等ヲ採録シタ。
10. 單行出版物中ニ附録トシテ掲載セル專門語彙ハ出來ル丈ケ採録シタ。
11. 文獻ニ關スル單行出版物並ニ書籍及ビ特許ノ目錄等ヲ採録シタ。
12. 雜誌ハ選鑛學及ビソノ研究ニ關係アルモノ並ニ鑛業ニ關係アル年鑑類ヲ採録シタ。
13. 報告ハ選鑛及ビ之ニ關係アル學校及ビ研究所ノモノヲ採録シタ。
14. 分類ハ原則トシテ一般的ナルモノヲ先ニシ，ソノ大綱ハ一般，實驗法，機械的分離法，補助的操作，辭書及ビ語彙，文獻及ビ書目，雜誌，報告其他トシタ。
15. 文獻ハ各分類項目毎ニ外國語文獻及ビ邦語文獻ニ分ケ，ソノ配列ハ著者名ノあるふあべつと順トシタ。但シ著者名無キ場合ハ書名ノ冠詞ヲ除ケル最初ノ綴字ノ順ニ依ツタ。
16. 文獻ガ二項目以上ニ亙ルトキハ主要ト思ハレル項目ニ挿入シ，他ノ項目ニハ之ヲ参照シ得ル様ニシタ。
17. 文獻ノ發行年ハ西歷紀元トシ，ごしつく字體トシタ。
18. 雜誌及ビ報告等ノ略語ハ外國ノモノハ主トシテ Chemical Abstract 30, I-CXXVI (1936) ニ依リ，Glückauf 70, 23—26 (1934) ヲ參考トシ，本邦ノモノハ主トシテ日本

化學總覽 15 (1941) = 依ツタ。

19. 雜誌及ビ報告ノ略語ハ括弧=入レゴシツク字體トシタ。
20. 附録トシテ抄録雜誌閱覽=必要ナル常用略語集及ビろしや人名ろーま字綴法ヲ加ヘタ。
21. 常用略語表ハ British Chemical and physiological Abstracts 1939, 302, Chemical Abstracts 33, 11329—11330 (1939), Index de Chimie industrielle 41 (1939), 日本化學總覽及ビ Chemisches Zentralblatt 110, (1939) ヲ基トシテ編纂シタ。但シ生物學關係ノ略語ハ省略シタ。
22. 常用略語表ノ配列ハあるふあべつと順トシ, ぎりしや文字及ビ附號ハソノ發音=從ヒ配列シタ。
23. ろしや人名ろーま字綴リ法ハ Chemical Abstracts 33(1939) 及ビ Chemisches Zentralblatt, Generalregister VIII, 1930—1934, VI (1935) = 依ツタ。
24. 著者名索引ハ外人名ト邦人名=分ケ, あるふあべつと順=配列シタ。但シ邦人名ハ最モ普通ト思ハレル讀方=從ツタ。
25. 事項索引ハ邦語ノあるふあべつと順=配列シ, 之ヲ更=外人名, 邦人名ノ區別ナク著者名ノあるふあべつと順=配列シタ。
26. 邦人名及ビ邦語ノろーま字綴リハ國定ろーま字=從ツタ。